

KADENA SKOSHI

OCT & NOV 2011

Vol. 37 & 38

第18航空団広報局発行



(米空軍：テラ・ウィリアムソン上等兵撮影)

12th Annual Kadena Special Olympics 5th Nov. 2011

(米空軍：ジャスティン・ヴィゼイ上等兵撮影)



第12回嘉手納スペシャルオリンピックス

第18航空団広報局

あいにくの天候にもかかわらず、大勢のアスリートが参加し第12回嘉手納スペシャルオリンピックスが11月5日(土)、開催されました。今大会にはアスリート約800人余、米国人ボランティア約2000人、通訳ボランティア約500人、沖縄県関係者、周辺自治体や米軍からの関係者を含むおよそ5,000人余が参加し、また、約440名のアーティストによる絵画展もライズナー体育館内で同時開催されました。

基地内消防隊の消防車による水のゲートをくぐり、アスリート達を乗せたバスが続々と到着しアスリートがバスから降りてくると、彼らを迎えるボランティア達の歓迎の拍手が波紋のように鳴り響きました。悪天候のため、開会式が急ぎよ体育館内に移動となった後も大会続行に苦慮しましたが、横殴りの雨に降られても競技に参加したいというアスリート達の気持ちに答える形で続行の最終決断が下され、晴れ間を縫って競技が行われました。アスリート達の一生懸命に、そして楽しそうに競技に参加している姿は大会を支えた日本人と米国人ボランティアや、参観していただいた数多くの人々の心を動かし、心温まる時間を共有する機会を与えてくれました。大会の最後には、参加したアスリート、ボランティア達が手をつなぎ、これまでにない大きな「友情の輪」を作り、今大会の無事終了を喜び、来年の大会への期待を胸に大会を閉会しました。

CONTENTS

第12回嘉手納スペシャルオリンピックス

大会の様子

赤Tシャツ軍団の活躍

日米交流クッキング教室

沖縄小児発達センターをハロウィーンで飾りつけ

訪問者

旧暦9月9日の参拝

外務大臣、嘉手納基地を訪問



2011 Kadena Special Olympics Hi-lights



(写真指定以外全て、嘉手納基地広報局写真部撮影)

5TH NOV. 2011 @ KADENA AIR BASE, OKINAWA, JAPAN

嘉手納スペシャルオリンピックス 赤Tシャツ軍団の活躍

KSO通訳ボランティア担当・狩俣 智恵美



(写真提供：チップ・スタイツ氏)

去る11月5日、沖縄県内の特別支援学校や作業所などから実に800名を超えるアスリート（競技出場者）及び1200名以上のご家族の皆様を迎え、第12回嘉手納スペシャルオリンピックが開催されました。大会開催日においては未だかつてないほどの悪天候に見舞われ、予定された日程が変更し、更に一日中その対応に追われたものの、幸いにも大きな事故もなく、無事に3時の閉会式を終えた時、2000人以上のボランティアの皆さんの顔に初めて安堵の色が見られました。嘉手納基地における最大のこの国際交流スポーツイベントは、そんな心の温かな多くの方の努力によって支えられ、回を重ねる毎に発展・成長してきました。

基地の中でのイベントや国際交流ですぐに直面する課題は、言うまでもなくコミュニケーションです。嘉手納スペシャルオリンピックでも合計約2000名のアスリートとご家族の皆様をお迎えするのですが、対応するアメリカ人のボランティアのほとんどは日本語を話せないばかりです。そこでどうしても必要となるのが通訳ボランティアの力です。当大会でははっきりと目立つようにと、通訳の方にはスペシャルオリンピックのロゴの入った赤色のTシャツをユニフォームとして着ていただいています。今回は過去最多の約500人が通訳として大活躍して下さいました。例年150人前後の基地従業員と県内の各大学 専門学校の生徒さん約300人ほどが通訳ボランティアとして貢献して下さいますが、全員が前もって約90分ほどの説明会にも参加し、大会の趣旨からその流れ、各競技・イベントの場所、規則などをしっかり把握した上で、大会当日の朝7時前には基地のゲートをくぐり現場に到着しています。それぞれが役割や持ち場を事前に決められており、会場に到着した時点で通訳としての責務がスタートします。大会本部での緊急放送を任されていたり、エンターテインメント出演者のお世話、来賓の接客、医療テントでの補助、美術展での説明係、各スポーツ競技場所での通訳など様々な役割がある中、一番数が多いのが競技者テント内でハガーと呼ばれるアメリカ人介添えボランティアと競技者の間に入ってコミュニケーションを助ける通訳の皆さんです。約350人の通訳が14張りの大テントの下で競技者やご家族をサポートしつつ、外国人のボランティアの名札を日本語で書いてあげたり、食事の世話をしたり、トイレに連れて行ったりと臨機応変に動いてくれます。そしてその350人の通訳のリーダーとなる方たちがそれぞれのテントに2人ずつ配置されたテントモニターの皆さんです。28名からなるこのモニターの皆さんは、事前に綿密な打ち合わせを重ねた上で大会に臨む為、少々のアクシデントにも冷静かつ的確に対応してくれます。それこそ迷子の面倒から、ギフトバッグの配布、通訳のみならずハガーへの指導をするなど、実に頼もしい大会成功の鍵を握る皆さんです。中には第一回大会からひとつの学校をずっと見て下さっているモニターの方や、名護の大学から毎年100名ほどの生徒を引き連れて来られる方もいらっしゃいます。総長28名が率いる約500名の赤Tシャツ軍団の面々の活躍なしでは、とりわけ今大会を乗り切ることはできなかったでしょう。

日本人側のボランティアで忘れてはならないもうひとつの大きな支柱が航空自衛隊那覇基地の皆さんです。毎回100名ほどの方が参加されますが、そのうち10名ほどが通訳、40名から50名ほどがハガー、そして40名ほどが昼食の配布の担当をされています。総勢5千名の大会参加者全員にハンバーガーやホットドッグをほぼ一斉に配布するのですが、その統率のとれた迅速な対応たるや「見事」の一言に尽きます。自衛隊那覇基地の皆さんも又事前に細かな打ち合わせをした上で大会に臨んで下さっています。

98%の競技参加者が沖縄県内の学校 施設所属の皆さんである非常に規模の大きなイベントが嘉手納基地内で開催されることに、一県民として深く感謝するとともに、大会実行委員会の一員として、日本人ボランティアの皆さんを含むたくさんのボランティアの皆さんが、ずぶ濡れになりながら誠心誠意頑張っておられる姿に胸を打たれる一日でした。

日米交流クッキング教室

第18航空団広報局

CULTURE EXCHANGE COOKING CLASS!



祭りの屋台などでよく見かける「焼きそば」は、米国人にも人気の高い食べ物です。その焼きそばもメニューに加え、嘉手納町商工会女性部と第18航空団広報渉外部の主催により、2011年10月5日、日米交流クッキング教室を開催しました。当日のメニューは、焼きそば、麻婆豆腐、シヤケおにぎりの3品。嘉手納基地から12名のご婦人方が参加しました。米国人が本国に帰っても家庭で作れるように、材料はすべて米国でも入手できるものを調達し、商工会女性部の方々が米国人にその作り方を説明しました。

「料理を通して一緒に笑い、楽しみ、時間を過ごすことによって、すぐに打ち解け仲良くなれるものですね。日本人の方も、私達米国人が間違えながらも日本語を話そうとする様子を見て、親しみを感じてくれているようです」と話すのは、嘉手納基地から参加しているホリー・マーティンさん。

商工会女性部の方は「お子さんがいる家庭は、焼きそばの味付けとして、ウスターソースにケチャップを加えて甘さを出すと良いと思いますよ」など応用できる食材を伝授。麻婆豆腐は、豆板醤で辛さの調節をすると説明され、米国人参加者はトウバンジャンという新しい調味料を覚えました。

料理の後は、女性部から嘉手納町の特産である「野国いも」を使ったスープ、プリン、ロールケーキが振舞われ、試食会も行われました。中でも米国人にプリンは好評で「舌触りがパンプキンに似ている」という意見もあり、食材や家族の話など、様々な会話で交流を楽しみながら、お料理を味わいました。次回はアメリカ側の家庭料理を紹介することで意見が一致し、再会を楽しみにしながら今回の料理教室はお開きとなりました。



(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



沖縄小児発達センターをハロウィーンで飾りつけ

第18航空団広報局

ハロウィーンも間近にせまった2011年10月15日（土曜日）、嘉手納基地にある全寮制の下士官学校NCOアカデミーで研修を受けている空軍兵14名がボランティアで沖縄市にある沖縄小児発達センターを訪れ、ハロウィーンの飾りつけを行いました。

入所している子供達や外来で訪れる子供達に楽しんでもらおうと、施設内のロビーや廊下にはハロウィーンならではのグッズーパンプキン、ゴースト、コウモリの人形などで飾りつけをしました。ロビーには、本物の巨大パンプキンや小ぶりのカボチャも置かれ、雰囲気盛りあげています。ボランティアたちは、センターの子供達と一緒に切り抜いたカボチャの型紙に顔を書いたり、シールを貼ったりと工作も楽しみました。

ハロウィーンのコスチュームとして、女の子には魔女の帽子がついたカチューシャ、男の子には角のついた被り物がプレゼントされました。NCOアカデミーは、嘉手納基地、横田基地やグアムのアンダーセン基地など太平洋地域内の米国空軍基地に所属する1等軍曹らが集まり上級下士官になるための研修施設です。年間を通して定期的に研修が行われています。隊員達は「研修だけでなく、地元地域の小児発達センターを訪ね子供たちとふれあい、沖縄でのいい思い出ができました」と楽しいひと時を喜んでいました。



HAPPY HALLOWEEN!!
from NCO Academy



VISIT PHYSICAL CHALLENGED PEOPLE FROM OKINAWA NATIONAL HOSPITAL!
PHYSICAL CHALLENGED PEOPLE FROM OKINAWA NATIONAL HOSPITAL!

訪 問 者

第18航空団広報局

10月6日、宜野湾市にある独立行政法人国立病院機構の沖縄病院から、介助職員、患者、家族を含む12名が嘉手納基地を訪問しました。患者の方々は、当病院の筋ジストロフィー病棟に入院中で、以前より嘉手納基地を見学したいとの希望があり、この訪問が実現したものです。飛行機を地上展示してある「エア・パーク」に立ち寄り、機体に触って飛行機の大きさを感じたり記念撮影を行いました。



WELCOME TO KADENA!



(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)

VISIT PHYSICAL CHALLENGED PEOPLE FROM OKINAWA NATIONAL HOSPITAL
VISIT PHYSICAL CHALLENGED PEOPLE FROM OKINAWA NATIONAL HOSPITAL
VISIT PHYSICAL CHALLENGED PEOPLE FROM OKINAWA NATIONAL HOSPITAL
VISIT PHYSICAL CHALLENGED PEOPLE FROM OKINAWA NATIONAL HOSPITAL!

ちくざき
菊酒

(写真指定以外全て、米空軍：ブルーク・ピアース上等兵撮影)



嘉手納基地内には戦前から受け継がれている拝所が数ヶ所あります。これらは神聖なる場所とみなされ、現在でも旧暦の特別な日に、ゆかりのある地域住民が訪れ祈願しています。

菊酒にあたる旧暦9月9日、北谷町の旧字上勢頭郷友会と沖縄市の森根郷友会から、およそ70名の人々が嘉手納基地内にある「森根ビジュル」、「シーグワー」、「上原ビジュル」を訪れました。それぞれの拝所で酒や食べ物が奉納され、集まった人々は祠や碑に向かい手を合わせ、村人や子孫の安全繁栄祈願、近況報告などを行いました。その後、供え物を全員で分けあい、久しぶりに会う郷友会の人たちと戦前の思い出話を花を咲かせました。

このような拝所訪問は、市役所・役場の担当窓口が嘉手納基地渉外部を通じて調整されています。特別な旧暦行事日以外は、金曜日を拝所訪問の日とし（業務の都合上受け入れられない場合もあります）、米人ボランティアを案内人として拝所訪問を実施しています。昨年およそ130人の地域住民が、嘉手納基地内の拝所を訪れています。



(エレメン上等兵撮影)

(米空軍：メイソン・エレメン上等兵撮影)

(写真指定以外全て、米空軍：ブルーク・ピアース上等兵撮影)



外務大臣、嘉手納基地を訪問

第18航空団広報局



(米空軍：ジャービー・ウォレス兵長撮影)

10月18日、玄葉光一郎外務大臣が嘉手納基地を訪問し、第18航空団司令官マシュー・H・モロイ准将の歓迎を受けました。玄葉外務大臣は平和と安定の確保のために沖縄に駐留する米軍関係者へ感謝の意を述べつつ、司令官に対し騒音や事件・事故の軽減への努力、地元と連携した災害時への対策と対応を要請しました。

モロイ准将は日米間の連携はかつてないほど重要になってきているとし、「日本の自衛隊と米軍は、相互運用性の確保のため日々連携を強化しています。沖縄は我々にとっても我が家であり、最良の隣人になるよう最善を尽くします。また、環境へも配慮していきます」と述べました。

また、「万が一津波が発生した際には、我々は即時にゲートを開放し、人々が高台に避難できるように支援します」と述べ、自然災害時には米軍は協力を惜しまないことを伝えました。

玄葉外務大臣は、日々の米軍関係者の努力のおかげで、多くの日本人が日米同盟の重要性に関心を高めていると述べ訪問を終えました。